

教職員自己紹介

田中 康一郎 (たなか こういちろう)
 知能情報学科・准教授

1969 年静岡県生まれ。1991 年九州工業大学情報工学部知能情報工学科卒業。1993 年九州工業大学大学院情報工学研究科情報科学専攻修士課程修了。同年九州工業大学マイクロ化総合技術センター助手。2007 年博士(工学)[九州大学]。2007 年 4 月九州産業大学情報科学部知能情報学科准教授。Reconfigurable Computing, Embedded Systems, VLSI Design Methodology に関する研究に従事。IEEE, 電子情報通信学会, 情報処理学会各会員。



古井 陽之助 (ふるい ようのすけ)
 社会情報システム学科・講師

長崎市生まれです。昭和 62 年に九州大学工学部に入学し、平成 5 年に九州大学大学院の修士課程を修了するまでの 6 年間は福岡市に住みました。平成 5 年 4 月に日本アイ・ピー・エム(株)に入社し、神奈川県大和市にて研究員として 7 年間、東京都中央区にて SE として 1 年間、計 8 年間のサラリーマン生活を経験しました。平成 13 年 4 月に退職し、九州大学大学院の博士後期課程に入学して学位取得を目指し、平成 16 年 3 月までの 3 年間は再び福岡市にて過ごしました。なお、この 3 年間のうち平成 14 年 4 月から 1 年半は九州産業大学情報科学部に実習助手として勤務し、「情報リテラシー」や「離散数学」の演習をお手伝いしました。平成 16 年 4 月から本年(平成 19 年)3 月までの 3 年間は神奈川県厚木市にある神奈川工科大学情報学部にて助手として勤務しました。この間、平成 17 年 4 月に博士(情報科学)の学位を取得しました。



以上のような次第で、福岡と神奈川を転々としながら履歴書の学歴と職歴に行数を増やし、満を持して……などと自分で言うのはおこがましいのですが、とにかく本年 4 月から九州産業大学情報科学部にて講師として働くことになりました。実習助手時代から数えて 3 年半ぶりの情報科学部ということになります。

研究分野はグループウェアです。つまり、コンピュータやネットワークを使って人と人が協調的に作業を進めていくためには、その道具としてのコンピュータはどうあるべきかを研究しています。なお、平成 19 年 4 月からは情報処理学会のグループウェアとネットワークアプリケーション研究会(GN 研究会)も務めています。

当学部における担当科目は「情報科学基礎演習 I」(1 年前期)、「データ構造とアルゴリズム I」(2 年前期)、「ソフトウェア演習 I」(2 年前期)などで、主にプログラミングを教えています。また、本年 7 月からは就職実行委員をも務めています。おそらく学部 4 年生からは「やたらとメールを送りつける教員」として認識されているだろうと思います。メール以外でのコミュニケーションをとる機会をもっと増やしたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

教職員自己紹介

花田 雅彦(はなだ まさひこ)

情報科学部事務室

<略歴>

平成3年3月:九州産業大学商学部第一部商学科卒業。

平成3年4月:九州産業大学事務職員として入社。

平成3年4月~平成7年7月:図書館に所属。

平成7年8月~平成13年7月:就職部に所属。

平成13年8月~平成19年3月:教務部に所属。(平成13年8月~平成14年3月:工学部担当、平成14年4月~平成19年3月:情報科学部担当)

平成19年4月~:情報科学部事務室に所属。



<趣味>

野球、読書

<抱負>

平成19年4月1日付で情報科学部事務室に異動いたしました。情報科学部については、開設当初(平成14年4月)から教務課情報科学部担当ということで、情報科学部学生の成績・履修管理、授業や補講及び試験時間割表の作成等を行ってきました。情報科学部では、九州産業大学の建学の理想「産学一如」のもとに、きちんとした教育が行われております。年2回の「産学懇談会」の実施や、産業界で活躍する現役の技術者を講師・インストラクタに迎えて産学連携で行う「プロジェクトベース設計演習」、情報分野で活躍されている方の講演会の実施等積極的に行っており、常に業界に求められる人材育成を考えカリキュラムも見直し、実践しております。その結果、平成19年5月に「情報科学総合コース」がJABEE(日本技術者教育認定機構)として認定されました。このことから今後ますます情報科学部は発展していくと思っております。教育施設や学生支援も整っており、情報科学部棟で行う授業は全て「講義記録システム」に録画され、学生の復習や教員のFD(ファカルティ・ディベロップメント)として活用することができます。今年から、「数学演習サポート室」を開設し、毎週水・金曜日に数学演習のサポートも行っており、後期から「計算機基礎サポート室」も開設しました。各教員のオフィスアワーも設定しております。このような教育環境が整っている情報科学部に入学されたら必ず満足され、自分が目指す世界で活躍されるものと信じております。私はこの素晴らしい情報科学部の先生方や素直で粘り強い学生のために今後も全力を尽くし支援していきたいと思っております。どうかよろしく願いいたします。

<学生の皆さんへ>

12号館3階事務室にありますので、何かありましたら気軽に声をかけて下さい。情報科学部で勉学に励まれ、4年間で卒業し、社会で活躍できるよう心から願っています。

川口 晋一(かわぐちしんいち)

教務部教務課情報科学部担当

<略歴>

平成11年3月:西南学院大学商学部経営学科卒業同年4月九州産業大学事務職員として入社。

<趣味> バレーボール

<自己紹介>

高校時代から始めたバレーボールを社会人となった現在でも続けています。実力は”下手の横好き”程度ですが”好きこそ物の上手なれ”という言葉信じて頑張っています。目標は全国大会出場。昨年は全国大会出場を掛けた九州大会の決勝戦で、先にマッチポイントを取りながら逆転負け。勝負の厳しさを改めて痛感しました。今年こそ頑張ります!!

<学生さんへ>

学生時代に色々な事に挑戦し、勉強でもスポーツでもなんでもいいので、目一杯打ち込めるものに出会って欲しいと思います。少しでも皆さんが充実した学生生活を送るお手伝いが出来ればと思っています。困った事があれば、いつでも教務課へ来て下さい。



教職員自己紹介

安藤 映 (あんどう えい)

実験助手

1979年生まれ、福岡県福岡市出身、2002年九州大学電気情報工学科卒業。2004年九州大学大学院システム情報科学府修士課程修了。修士課程修了後2年4ヶ月富士通株式会社勤務し、現在九州大学大学院システム情報科学府博士後期課程在籍。

研究テーマは「確率的なシステム上の最適化問題の解を求めるアルゴリズム」です。要素が網の目のように接続されたシステム(例、インターネット、道路網、電力網、電話線など)の上で、例えば地点Aから地点Bまでゆくの最短でどれくらいかかるかといった問題であったり、LSIが入力信号を受け取ってから信号を出力するまでにかかる時間がどれくらいかといった問題であったりします。状況がまったく変化しないような場合、このような問題は計算機を使えば効率的に解けることが数十年前から知られています。

しかし、現実に使用される多くのネットワークは、様々な状況が変化し、またその予測を立てることが困難です。このような場合、変化しうるネットワークの構成要素を確率変数とみなして同じような問題を解くことが素直な解法です。特に、LSIの信号の入出力間の時間差(信号遅延)を見積もる問題は、半導体の微細加工技術が進歩するにつれてますます重要になっています。この問題に対する解法としては、確率変数を擬似乱数でシミュレーションすることを何度も繰り返しをして統計をとるとある程度解に近い値(近似解)が得られることが知られています。しかし、本当に必要な精度の近似解を得るために何回シミュレーションを繰り返せば良いかは明らかではありません。そこで私の研究では近似解の誤差の理論的な見積り(近似保証)を実現するアルゴリズムの開発と、近似保証の証明を作成しています。

講義では、情報リテラシー、微分積分、線形代数、プログラミング基礎を担当します。



高妻 倫太郎 (こうづま りんたろう)

実験助手

現在私は九州大学大学院数理学府で楕円曲線という数論の対象を研究しています。本籍は宮崎、小中高を埼玉・福岡(北九州)で過ごし、大学入学と同時に福岡市へやってきて今に至ります。

【教育面】教育で最も肝要なことは、ある対象に対して興味や好意を持つきっかけを与えることだと思います。それを好きになれば他人が強要せずとも自ら突き進むことができるものと信じるからです。そのためには些細な事でも褒めることが重要です。一度やる気を起こさせれば後は知識的・技術的なことを伝えるのみですがこれは教育の二次的要素と考えます。教育面ではこれらのことを意識して行動するように心掛けています。

【嗜好】私は小中高校生のころ自分で発想して物を創ること、図画工作など美術系のことが好きでした。数学には未知の世界がたくさんあり、それを自らの手で発見していく愉しみに気づかせてくれたのは高校の熱心な先生方です。進路選択の際に数学の世界で図画工作して美を追究してみようと思いました。自由な発想ができる点では数学も芸術も大差ありません。さらにやりがいも感じられるものならどんなことでもやってみたくとも思います。

【数学】世の中、表面上では関連性がないように見えるものも本質的にはつながっていることが数多くあります。そのような一見不可視なもの(内在している規則性)を見るためには数学的思考が大変役立ちます。数学なんかいつどこで役に立つの?という人がよくいますが気づかぬうちに普段から数学的思考でものごとを捉えているものです。数学を学ぶということはそういった思考法を身につけるということに他なりません。数学教育に関しては発見することの面白さに気づいてもらえるよう努力しているつもりです。

【趣味】趣味のひとつにコンピュータプログラミング(主にC++)があります。大学4年時にプログラミング好きの仲間3人でチームを組んでACM主催の国際プログラミングコンテストに出場し、国内予選通過後、アジア予選まで運良く勝ち進むことができたのはよい思い出です。きっかけが訪れればチャレンジしていく、という心構えで生きていきたいものです。

雑記になりましたが、以上で自己紹介とします。

